

自然観察ちば 25 周年記念の集い

2008 年 9 月 6 日

伊藤 道男（千葉市）

かすかに秋の気配が感じられるようになった 9 月 6 日(日)に、「自然観察ちば 25 周年記念の集い」が、72 名の参加を得て、千葉市京葉銀行文化プラザで開催された。盛一昭代さん(千葉市)の司会進行で開幕し、冒頭「多様な人材とネットワークが会の財産であり、周囲の期待に応えさらなる発展を」との和仁代表の挨拶があり、浅間茂さん(我孫子市)の記念講演会「自然観察あれこれ」では、氏のライフワークでもあるボルネオ(53 回 900 日の調査)の生物相や、アサギマダラや房総半島の外来生物、さらには個人で購入した電子顕微鏡の映像にまで話題が及び、氏ならではの幅広く多様な視点にうなづく会員も多かった。

次にパネルディスカッションに移り、「25 年間の自然観察指導員活動を振り返って」をテーマに、発足当時からの会員である浅間茂さん、岩瀬徹さん(八千代市)、小高正美さん(長生村)、田中正彦さん(佐倉市)、土屋喜久雄さん(いすみ市)、成田篤彦さん(木更津市)、八木和主男さん(千葉市)の各氏にそれぞれの思いを語っていただいた。(真田三郎さん(鴨川市)はご欠席)

初代会長でもある岩瀬さんからは会発足当時の貴重な話と共に、しおかぜの創刊号の実物などが披露され、先輩方の積み上げられた歴史が実感できた。他の方々からもウミガメ、トウキョウサンショウウオ、トンボ、ビオトープなどの具体的な話題や地域のフィールドの現状、自然に接し理解する際の心構えなど貴重なお話を聞きした。また、発足当時は教員の方が多いこともあり、「これまで仕事に追われてなかなか協議会活動に参加できなかったが、(勤務を)卒業した(する)ので、調査、観察会など積極的に参加したい」といった心強い発言が何人もの方からあった。

質疑応答では、環境意識の変化、自然観察の方法論、キーになる種をしっかりと覚えることの重要性等の議論があった。

その後、記念写真撮影をはさんで、田口信一郎さん(船橋市)の司会進行で懇親記念パーティーが賑やかに開かれた。市川清忠元代表(四街道市)の力強い挨拶、(財)日本自然保護協会教育普及部長芝小路晴子氏からの自然保護活動の現状と各地の活動との連携の重要性など示唆に富んだ挨拶と続き、高野史朗元代表(市川市)が乾杯の音頭をとった。懇談の席では、先輩諸氏を囲んだ輪がいくつも出来て、各地の情報交換などで話しが盛り上がった。やはり自然論議は楽しい。料理も会員の嗜好を事前に伝え、残さない程度の量としたこともあって、きれいに平らげることができた。また、和仁道大さん(千葉市)の胡弓演奏と、近藤維久子(佐倉市)さんによる環境紙芝居の披露があり、会場に花を添えた。時間の経つのは早く、話は尽きない中、石島基次副代表(千葉市)の閉会の挨拶で幕を閉じた。